

## 会 議 録

|                          |            |  |                   |
|--------------------------|------------|--|-------------------|
| <b>会議名</b><br>(付属機関等名)   |            | 令和4年度 第3回 川西市総合計画審議会   |                   |
| <b>事務局(担当課)</b>          |            | 総合政策部政策創造課   |                   |
| <b>開催日時</b>              |            | 令和4年12月23日(金) 午後6時から   |                   |
| <b>開催場所</b>              |            | 川西市役所4階 庁議室  |                   |
| <b>出席者</b>               | <b>委員</b>  | 伊藤 嘉余子、上村 敏之、片山 優子、澁谷 和正、<br>中野 雅文、新川 達郎、松浦 龍基、水野 優子、<br>山本 利映 (敬称略) |                   |
|                          | <b>その他</b> | 一般社団法人シビックテック・ラボ 市川希美 (敬称略)  |                   |
|                          | <b>事務局</b> | 越田市長、石田総合政策部長、飯田総合政策部副部長、<br>野田政策創造課長 他課員3名                          |                   |
| <b>傍聴の可否</b>             |            | 可  | <b>傍聴者数</b><br>8名 |
| <b>傍聴不可・一部不可の場合、その理由</b> |            |  |                   |
| <b>会議次第</b>              |            | 次ページに記載  |                   |
| <b>会議結果</b>              |            | 審議経過のとおり   |                   |

# 令和4年度 第3回川西市総合計画審議会 次第

日時：令和4年12月23日(金曜日)  
午後6時～

## 1. 開会

## 2. 報告事項

なし

## 3. 議事

- (1) 第6次川西市総合計画 基本構想骨子案について 【資料1】
- (2) 第6次川西市総合計画 基本計画について 【資料2】
- (3) 第5次総合計画の総括 ～成果指標の達成状況等について～ 【資料3】
- (4) 総合戦略の概要及び進捗状況について 【資料4】
- (5) その他

### 【参考資料】

- ・ 第5次総合計画総括資料 【資料3参考資料】
- ・ 第2次総合戦略にかかる令和3年度進捗管理資料 【資料4参考資料】

# 審 議 経 過

【開始時間：午後6時00分】

## 1. 開会

●**新川会長（以下、会長）** お時間がまいりましたので、令和4年度第3回川西市総合計画審議会を開催いたします。皆様におかれましては、お寒い中、そしてご多忙にもかかわらずご参加いただき誠にありがとうございます。

本日は神谷委員がご欠席ということですが、それ以外の皆さま方はお揃いのようです。オンラインで出席されている皆さまも、どうぞよろしく願いいたします。

それでは事務局から、本日の進行の補足をお願いします。

●**事務局** ありがとうございます。本日の進行に当たりまして、前回と同様、審議内容等をイラストなどを用いてリアルタイムで記録していく、グラフィックレコーディングという手法を取り入れたいと思います。会議中、皆様のお顔とは別の画面に作業の様子が映っております。完成したものは、審議会終了後に議事録とあわせて公表する予定です。

事務局からの補足は以上です。

●**会長** ありがとうございます。続きまして、市長様よりご挨拶いただければと思います。よろしく願いいたします。

●**市長** 皆さんこんばんは。会長をはじめ委員の皆様におかれましては、この総合計画という川西市の将来をどうしていくのかという、非常に大きな宿題をお任せし、私も議論に参加させていただいておりますが、日頃ご協力をいただいていることに心から感謝を申し上げたいと思います。

市長2期目の就任をし2ヶ月が経ちました。先日公表もしましたが、財政状況について、最悪な場面は何とか脱出しましたが、まだまだ厳しい状況が続いています。救急治療室は出たけれども、まだ入院が必要な状況ではないかな、というのが川西市の財政状況だと思っています。ただやはり、次の時代をどうするかということを考えたときには、当然、財政の収支均衡や、持続可能な社会をつくる、これは当然考えないといけない。それは大前提として、ただ一方でしっかりと夢を描いていかないと、何となくマイナスな状況ばかりが続いていって、何かこう息苦しさを感じてしまうと思います。

そういったところでは、「これだけはやりたいんだ」という夢の部分、やはりこの総合計画審議会ではしっかりとご提案いただきたいと思っていますし、市民との皆さんとの対話というものも通じながら、ブラッシュアップしていきたいなと思っています。業務の効果を上げることは前提として、やはりこの取捨選択を市民に選んでいただくというふうにならなければいけないと思っています。過去にそんな計画をつくった自治体があるかどうか私はよくわかりませんが、そういった状況でございますので、委員の皆様には、こういうプランの作り方はどうか、基本的な部分は骨子として、今かなりの部分で詰めさせていただいておりますけれども、そういったところも私自身悩んでいるという、率直な思いも少し念頭に置いていただい

て、これからの議論をお願いさせていただければと思っておりますので、どうかよろしく願  
いいたします

少し長くなりましたが、ご挨拶とさせていただきます。

## 2. 報告事項 (なし)

●**会長** ありがとうございます。

それでは本日の次第に従いまして、議事を進めてまいりたいと思います。

本日の報告事項はなしということでございますので、早速、議事のほうに移りたいと思いま  
す。

## 3. 議事

●**会長** 議事の一つ目は「第6次川西市総合計画 基本構想骨子案について」ということでご  
ざいます。これにつきまして、事務局のほうからご説明よろしく願います。

●**事務局** (1) 第6次川西市総合計画 基本構想骨子案について (【資料1】)

それでは事務局より、第6次総合計画 基本構想骨子案についてご説明いたします。

この資料は、昨年度に策定した総合計画策定方針や、回までの審議会でお示した事務局案  
を再整理したのになります。

1ページには、総合計画の大きな枠組みや策定期間について、これまでご説明したものと  
同じ内容を記載していますので、説明を割愛します。

続いて2ページ、3ページにつきましても、主に前回までの内容を記載しております。例え  
ばですけれども、2ページの右上をご覧ください。こちらに、基本構想のトップにくる「まち  
の未来像」を記載しておりますが、こちらなどは、前回の審議会でもお伝えしましたとおり、  
今後実施する市民との取り組みなどを元に策定する予定としていますので、この骨子案でも未定  
のままとしております。それらの取り組みは主に来年の1月から実施する予定ですので、それら  
の概要や進捗につきましては、本日の事務局の説明の最後に少し補足したいと思っております。

そのほか、前回の審議会ではこの「未来」という表現の是非であったり、基本構想の中に示  
している「4つの基本姿勢」と、それらに繋がる「分野別の目標」に使用した文言のレベルが  
似通っていてわかりづらい、といったご指摘もいただいております。今お示ししています骨  
子案では、前回いただいたご指摘に対する反映は全ては行っておりませんが、先ほど申し上げ  
ました市民に参加いただく取り組み、これが来年の1月から始まりますので、次回の審議会  
では、それらを経て補強したものを改めてお示したいと考えております。

3ページも前回と同じ内容ですので割愛します。

4ページは、「総合計画策定方針」を元に、総合計画の策定過程、そして、策定後に大切に  
すべきポイントとプロセスを整理したのになります。こちらの資料は、まさに策定過程のも  
のとして、来年1月の取り組み等でも市民の皆さまと共有していく予定です。

今回の資料の策定意図としましては、これまで協議を重ねてきました基本構想の形が、こ  
こに示す策定プロセスから大きく外れてはいないだろうか、ということの確認を皆様に改めてお

願います。本日皆様からいただくご意見のほか、今後、市民からいただくアイデアやご意見等も踏まえまして、本資料は引き続き修正肉づけをおこなっていく予定でございます。

事務局の説明は以上となります。

●**会長** ありがとうございます。基本構想の骨子案につきまして、これまでご審議いただいたところもございますが、改めて全体像を事務局からご紹介いただきました。

この骨子案につきまして、委員の皆さまから何かご質問、あるいはご意見等ありましたらいただいてまいりたいと思います。オンラインの委員の方々も、ぜひ合図をしていただければと思います。

どうぞ、上村委員。

●**上村委員** ご報告ありがとうございます。綺麗にまとまった資料で、簡潔に報告していただいたと思います。

資料4ページの、策定プロセスについての図ですけれども、この「策定後」が結構重要かなと思っています。ようは、この「みんなで達成をめざす計画とする」と、その下「成果による適切な進行管理を行う計画とする」ということは、その成果をきっちりシェアしないといけないです。つまり、市民に対してわかりやすく成果を共有できる仕組みをどう持つか、ということですね。

例えばその進捗過程をホームページ上にきっちり示していく。どういう示し方をするかはこれから考えるとして、総合計画がこう進んで今ここまでできていて、こんな成果が出ているんだっていうシェアの仕方を、考えていかないといけないと思います。以上です。

●**会長** ありがとうございます。このあたりは、今後どういうふうに進捗管理するか、あるいは策定後の中でいかに成果を上げていくか、ということに関わる重要な問題かと思っています。

関連して、ご意見あるいはご質問等ございましたらいただければと思います。もちろん、それ以外の観点でも結構です。

澁谷委員、どうぞお願いいたします。

●**澁谷委員** 私もですね、4ページの「成長する計画とする」という策定後のところについて、「実行段階においても、必要に応じてみんなでつくり直せる計画にします」がすごくいいなと思っています。私自身も企画するのが結構好きで、市役所にアイデアをお持ちすることもあるんですけども、やはり”でき上がったお話”からのスタートが今までも多かったので、例えば若い世代がですね、できるかどうかで言ったら、やっぱり難しいところがあるんですけども、10代の子どもたちが、まだ肉づけができてない状態の企画から一緒に考えていけるような取組みがあればいいなと思ってきましたので、今回、こちらに関してもすごくいいなと思いました。

●**会長** ありがとうございます。積極的に若い方たちに参加いただきながら実現していく、そんな総合計画になっていくといいですね、ということでご意見をいただいております。

そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

先ほど重要なお意見をいただきました。一つは、成果を、あるいは計画の進捗というの、市民の皆さん方と共有しながら丁寧に評価をし、フィードバックをし、そしてさらに良い計画にしていく。また、実現していくというプロセスも大事にしていきたい、ということ。

それからもう一つは、成長する計画という観点から、むしろこの総合計画の中で、特に若い方たちと一緒に施策や事業というのをつくっていき、そして成果を上げる。言わば提案段階から参加していただくような仕組みを積極的に取り入れる。そんな総合計画があつてよいのではないかということで、それが成長する計画となるのではないか、というようなご意見もいただきました。

このあたりは、今後、さらに基本計画を考えていくときの重要なポイントにもなろうかと思っておりますので、改めてそのときにもご議論をいただければと思っております。

それでは、基本構想の部分につきましては以上にさせていただきます、本日2つ目の議事、こちらが少し重いかと思いますが、第6次川西市総合計画基本計画につきまして事務局からご説明をお願いいたします。

●事務局 (2) 第6次川西市総合計画 基本計画について (【資料2】)

それでは、第6次総合計画の基本計画部分についてご説明します。

基本計画は、先ほどまでお話しました基本構想の下に位置付けられ、基本構想で示す「まちづくりのビジョンや方向性を実現するために取り組むべき手段」を体系的に示すものです。それを示した図が、1ページの真ん中部分になります。

総合計画とは、まちづくりを計画的かつ長期的に進めるために策定するまちづくりの指針であるため、基本計画、あるいはその下の細かな実施計画に基づきおこなった各取組が、川西市がめざす未来像の実現に向けてどれだけ効果があつたかということ、市は毎年評価してきました。

この後ご説明する【資料3】では、現在の第5次総合計画での達成度につきまして、今の評価方法に基づき、令和3年度決算時点の内容をお示するとともに、今までのやり方を踏まえ、第6次総合計画で、より「みんなでつくる」「わかりやすい」そして「みんなで達成をめざす計画」としていくために、「まちづくりの進捗を評価する」という点について、事務局の考える課題や見解について後ほどご説明いたします。また、「第6次総合計画ではこのような形が考えられるのではないか」という事務局案を今の【資料2】の3ページにも示しておりますが、こちらにつきましても、【資料3】にて詳しくご説明差し上げます。

続いて4ページですが、次の総合計画において、本市では色々な施策の中に「重点プロジェクト」のようなものを位置づけようとしており、ここではその背景をご説明しています。ただし、こちらにつきましても【資料4】でより詳しく触れていますので、本資料での説明は割愛いたします。

【資料2】の説明はここまでとしまして、一度会長にお返しした後、総合計画の評価の部分につきましては、引き続き【資料3】にて事務局よりご説明いたします。以上です。

●**会長** ありがとうございます。

それでは事務局のほうから、本日3つ目の議事になりますが、第5次総合計画の総括につきましての説明をよろしく願いいたします。

●**事務局** (3) 第5次総合計画の総括 ～成果指標の達成状況等について～ (【資料3】)

それでは事務局より、第5次総合計画の総括についてご説明させていただきます。

冒頭では目次1・2のとおり、本資料の目的や現行の第5次総合計画の構成についてを説明いたします。その後、3・4で現行計画のふり返りをさせていただきます。なお、最後の別冊につきましては、目次4の「指標に基づくふり返し」に関する詳細の資料となっております。

資料3ページをご覧ください。現在「第6次川西市総合計画」について、ご議論いただいておりますが、新たな計画を策定するに当たっては、現行の第5次川西市総合計画が「どのように策定されており」「どのような計画」で「どのような結果・成果だったのか」を確認し、その反省等を次期計画に活かしていくことが必要であると考えています。本日の振り返りは、そのために行うものです。

また、第5次総合計画は平成25年度から令和4年度までを期間とする10年間の計画ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により1年延長され、令和5年度までの計画となっております。

資料4ページに移ります。ここでは第5次総合計画の構成をご説明いたします。

第5次総合計画は「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3層構造となっており、「基本構想」でまちづくりのビジョンと大きな方向性を、「基本計画」「実施計画」では基本構想の実現に向けた取組みの内容を示しています。

そして、資料の左側には、基本構想に掲げる理念を補完・具体化するための各種計画、右側には、市内14の地域毎に策定された「地域別構想」を記載しております。第5次総合計画はこれらと連携して運用する、という構造となっております。

続く資料5ページでは、第5次総計について2つの視点でふり返しを行いたいと思います。

まず、総合計画の内容や構成のあり方について「総合計画全体のふり返し」を行います。次に、現行の計画では目標に向けてどの程度達成できたのかを測るため、指標を設定しております。このことから、指標に基づくふり返りの流れについてもご説明いたします。

資料6ページで、まず総合計画全体の振り返りについてご説明します。

「振り返り」というと様々な方法があると思いますが、大きな変更を行った点、ここでは第5次総合計画で新たに取り入れられた「役割の設定」と「地域別構想に基づく地域づくり」についてご説明いたします。

資料内2の「役割の設定」ですが、第5次総合計画では、施策目標の達成に向けて「市」の果たす役割だけでなく、「市民」「市民公益活動団体」「事業者」に期待する役割を記載しました。役割の設定に当たっては、まちづくりワークショップや地域別懇談会などで市民の皆さんからも意見をいただき、それを踏まえて役割を設定できたということが、それまでの計画から一歩前進したところであると考えています。

さらに、設定した役割にもとづき、「市民」や「市民公益活動団体」の活動が行われた例も

あることが、一定の成果であると考えております。

一方で課題としては、役割の項目が多かったこともあり、市民の皆さんに役割について十分に浸透させるまでには至らなかった点が挙げられます。

第6次総合計画に向けては、それぞれの役割を意識していただくこと自体を大切にしながら、市民や事業者の皆さんが活動・活躍したいときに様々な形でそれを支援できるしくみ、というものを整えていきたいと思っております。

続いて資料7ページです。地域別構想につきましては、地域住民が、地域的な生活課題を住民の意思と責任に基づき解決するという「住民自治」を充実・強化するための1つの方策として新たに第5次策定時に導入したものです。

成果としては、地域の課題に対して地域自らがその解決にあたるため、一定の権限と財源を地域に移譲する「地域分権制度」を構築できたことが挙げられます。

一方で、課題としては「地域の担い手が高齢化している」こと、「後継者が不足している」ことなどから、地域分権制度のあり方について改めて検討が必要になっていることなどが挙げられます。

これらを踏まえ、第6次総合計画の策定に向けましては、地域別構想に基づく地域づくりを継続することに加え、市民一人ひとりが活躍できるような支援を行い、住民自治の充実に向けたい取り組みを進めたいと考えております。

続く資料8ページでは、冒頭でも申し上げた「指標に基づく振り返り」をおこないます。

第5次総合計画後期基本計画では、143の指標を設定し、その中で基準値及び目標値を設けて評価をおこなってきました。

現段階では目標時点である令和4年度末は到来しておりませんので、令和3年度末時点の実績と目標値を対照して「達成」「達成はしていないものの基準値より上昇」「同じく未達成で基準値より下降しているもの」に分けて評価をおこないました。

なお、資料内「測定不能」2点について具体的に申し上げますと、1つは「職員給与費医業収益比率」、これは「市立病院の指定管理者制度導入に伴い、職員給与費医業収益比率がゼロ」となったため計測不能となりました。もう1点「姉妹都市であるポーリング・グリーン市との交流事業数」につきましても、「令和3年3月31日で姉妹都市関係を解消」したため計測不能となりました。

以上の例外を除く全体の結果は、資料内でお示ししているとおりです。基準値よりも改善されたもの（「達成」及び「基準値より上昇」）は全指標中61.5%となっています。なお、本日は議論いただく時間をとることはできませんが、各施策にかかる評価指標の詳細につきましては、参考資料の「第5次総合計画総括資料」を参照ください。

資料の9ページ、10ページをご覧ください。指標を用いたことによる利点としましては、目標の達成状況がわかりやすく表現できたことや、他の自治体と同じ指標を持つ場合には比較ができること等が挙げられます。ただ一方で課題となっている点は、1つひとつの施策を評価するうえで、適切な指標を設定することが難しいことが挙げられます。

先ほどの課題について、資料11ページ・12ページにかけて、第5次総合計画の施策体系に沿ってご説明します。現行の計画では、「基本計画」内の「施策」に評価指標を設置し、総合計画全体の達成度を測っています。ただ、全ての施策に指標を置くことで進捗・達成状況を見る



という形につきまして、現実には、その目的を十分に果たせているとは言えないところもありました。

ここでは、施策の1つを例に挙げてご説明したいと思います。「観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます」という施策です。実際には、これに紐づく5つの事業を実施することで「施策を実施した」と見なしております。この施策の評価指標として、「姉妹都市である香取市の名前を聞いたことがある市民の割合」と「観光客入込数」の2項目を設定しております。

1つ目の指標の意味するところは、「姉妹都市間で観光情報を交換することにより、相互の交流や、市民へより広く周知を図る」ということなのですが、この内容では、施策目標の達成を図る上で課題がございました。つまり、それぞれの事業の中身と、この指標の意図するものが“遠い”という課題です。

また、2つ目の「観光客入込数」に関してですが、こちらの2年前の実績は126万人だったのですが、最近ではコロナの影響もあって大幅に減しております。そもそも観光客数自体、様々な外部要因に影響される面も大きいので、主観に基づくものや社会情勢に左右されやすいものは、事業の適切な評価に直結しづらいという面もあり、こういった部分でも指標の設定について難しさを感じているところでございます。

先ほど補足した内容はあくまで一例ではございますが、こうした課題を解消するために、【資料2】3ページにも案をお示ししましたが、指標の設置階層の見直しを含めて検討しているところです。

具体的な指標の中身は今後市で検討してまいります。その際には「みんなでつくり、みんなで評価して、みんなでつくり変える」ことを大切にしたいと思っております。これは総合計画策定方針にも打ち出しているところでございますが、それにはどんなことが大事なのか、必要なのかといったことについても、本日ご意見をいただければ幸いです。

事務局からの説明は以上となります。

●**会長** ありがとうございます。基本計画の部分と、その中での具体的な成果指標に関わって現行の計画の総括における評価の在り方、そしてそこでの課題についてご説明をいただきました。

第6次の計画で、これをどう考えていくのかということは、非常に大きな課題かと思っております。各委員からもいろいろなアイデアをいただきながら、より良い評価、あるいは成果の出し方をつくっていただければと思っております。

ここまでのご説明に関連しまして、皆様方からぜひ、ご質問やご意見を願います。どうぞ、水野委員お願いします。

●**水野委員** ご説明ありがとうございます。

現在の計画の振り返りをして、それを第6次に活かしていこうというところで、しっかりと分析をして進めていこうする点は非常に素晴らしいなと思ってお聞きしておりました。

例えばですけれども、先ほどの【資料3】の6ページのところです。現行の計画では、それぞれの役割を設定したということが特徴であったというところで、その振り返りをされ

てるわけですがけれども、その中で、今回その課題ということで、役割ということは設定できたけれども、なかなか浸透なかったというようなところを挙げておられると。

このあたりを第6次に活かしていくときに、今まではなぜ浸透しなかったのか。そのあたりを深く読み込んでいくってところが、必要なのかなと思っています。

そのあたりは先ほど基本計画のご説明にもあったと思うんですが、今回の計画は「みんなで作る」というところを非常に大切にされると。そして先ほどのご意見では、企画段階から参加できるような仕組みや、進捗状況も順次確認できるよう、情報もオープンにしていく、そういうような計画にしていく、というお話がありましたけれども、こういう計画ってなかなか自分事にならないんですけれども、やっぱり自分の発言がしっかりと届くといいますか、対話ですよ。やっぱり対話ができるということが、しっかりと担保されていくと、こういった役割に自覚を持って、計画と自分自身の生活というものの接点を感じながら進めていけるんじゃないかなと思います。まさしくその先ほどの、今回の計画の特徴だ、みたいなどころをしっかりと形にしていくことが必要かな、と思いながらお聞きしております。以上でございます。

●**会長** ありがとうございます。重要な論点をいただきました。

対話に基づいて、そしていろんな役割を、市民の皆さんなどに知っていただかないといけないのですが、市民が積極的に活動していただける、そういう計画になってくると本当に先ほどの成長する計画やあるいは常にフィードバックがしっかりと効いて、効果の出る計画になっていく、ということだと思います。ありがとうございます。

関連して、あるいはそのほかいかがでしょうか。

どうぞ伊藤委員お願いします。

●**伊藤委員** ありがとうございます。私も【資料3】の12ページとか、ちょっと戻るかもしれませんが施策の評価についてです。指標の設置階層の見直しを検討するということだったんですけれども、先ほど基本構想の骨子案でもあった「みんなで達成をめざす」とか「成長する計画とする」という話がありました。また「4つの基本姿勢」のところで、年齢や立場に関係なくみんなが参画するということでやはり「子どもが幸せになります」というところがあるので、「計画の評価を誰がするのか」という観点から、やっぱり市民にわかりやすく、成果とか進捗状況をシェアをする仕組みづくりの中で、成果や進捗を子どもも評価できるような部分を入れ込んでいただけたらいいのかな、という感想を持ちました。以上です。

●**会長** ありがとうございます。誰が評価をするのか、という観点でお話をいただきました。そして「みんなで作る」ということからすれば、みんなが評価をしないといけないということでもあります。そしてそのみんなの中には当然、子どもたちも入ってきます。それには評価の仕組みというのも工夫していかないといけないということだろうと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

どうぞ上村委員。

●**上村委員** お疲れさまです。ここの部分は、行政としては相当悩んでおられると思います。

第5次総合計画は施策単位で評価をしてきたということで、それをおそらく、明確に言われてないけど事業単位にしたいっていうような話なんじゃないかなと思いますけどいかがですか。それか、重要プロジェクトを個別に組んで、その評価を事業単位でやろうという形でしょうか。この次の議事での話かなとは思いますが。

●**会長** おそらくそうですね。

●**上村委員** わかりました。これは後でお答えいただくということで。

おそらく何が問題になっているかという、もちろん施策評価の指標を立てるのもとても難しいのですが、12ページにあるように、基本的に職員さんは事業単位で仕事をされているので、その中で施策を意識することはなかなか難しいということと、あと事業単位の指標と施策単位の指標がうまく連動してないということが、多分大きな問題になっています。職員は事業を頑張っているのに施策評価でやられているから、大変だというようなことが起こっているわけです。これはもう、どの自治体でも同じ問題を抱えておられます。

それを抜本的に変えて、事業ベースで評価し、重要プロジェクトを、市民が特に関心のあるものにする。全ての事業の見える化はできないし、自分たちのものにならないような気がするので、そういう形に変えていくのは、私自身は賛成です。

ただ、どの指標を選ぶのかというところがとても重要だし、あとどう見せていくのか。この2点をちゃんとクリアしないと、という思いです。以上です。

●**会長** ありがとうございます。

具体的な評価の単位と視点、またそのときの評価項目の設計、このあたりについて重要なご示唆をいただきました。

特に、施策レベルの評価と事業レベルの評価、それらをどういうふうに体系化するかというところで、皆さん従前から苦勞をしてこられていて、なかなかうまくいかないというのが現実問題としてありました。

それを今度は、重点プロジェクトあるいは重要な事業というものを中心にして、評価していくという視点。それから、むしろ、主要な施策やあるいは基本計画の主要な項目の中で重点プロジェクトというのを位置付けた上で、その重点プロジェクトの評価をもってこの計画の評価を考えていく。こういう考え方も当然あるかと思いますが。

このあたり色々ご意見がおりかと思しますので、皆様方からもいただければと思います。

中野委員どうぞ。

●**中野委員** 指標を設定されることで、しっかり進捗状況をチェックし、PDCAサイクルを回していこうということかと思えます。

その際チェックをどういう周期でやっていくのかということと、当然チェックした後にはアクションを起こさないとはいけません。そこについては非常に柔軟性を持ってやらないといけないと思うので、その柔軟性をどうやって持たせるかということが、重要だと思います。

ですので、極端なこと言えば、誰にどこまでの権限を与えてアクションを起こさせるのかというところをしっかりと決めておかないと、結局チェックだけをして、終わってしまう。そうすると全然スパイラルアップをしていかないということになるので、それをどのように工夫していくのか。

民間だったら割とやりやすいのですが、行政の場合、どこまでそれができるのかは私もわからないので、その点について、こういうふうにやっていこう、あるいは現在やっていますというようなことがあれば、教えていただければと思うのですが、いかがでしょうか。

●**会長** ありがとうございます。現行計画の評価、具体的にはどういうふうにしてPDCAサイクルが回っているのか。ご質問いただきましたので、事務局の方をお願いします。

●**事務局** まず、現行計画をどのように評価しているのかということであります。既にご存知かもしれませんが、川西市は、事務事業評価と予算の連動ということについて、全国的に先駆けてやってきた経緯がございます。具体的に言いますと、毎年度の決算にあたっては、各事業レベルでどういう取組をして、どういう成果が出たという評価をまず行っています。またその事業が、より上位の施策にどのように貢献をしたのかというところを、決算成果報告書にまとめ、毎年度これを議会に主要な施策の成果を報告する資料として提出し、これに基づきいて決算の認定の審議をしていただいているところです。

各担当所管においては、具体的な事業レベルを意識することが多いですが、どういう取組みができて、どういうことができなかつたかということを中心に数字で説明するという形になっております。施策レベルについても、どういう課題が見つかって、どういう成果が出たのかを別途まとめ、議会で審議していただいて、また翌年の予算要求につなげていくという形でPDCAを回していこうとしているのが、現在の川西市の取組みであります。

●**会長** ありがとうございます。説明にあったように、川西市は従来の事務事業評価をベースにしたPDCAサイクルを、これまで回してこられました。

事務事業を束ねた施策の評価が的確だったのかという点は、当然議論があろうかと思えますし、事務事業の体系を、施策の観点で見直すというところまで行き及んでいたかどうかについては議論があろうかと思っております。

このあたりのご意見があればよろしく願いいたします。

山本委員、どうぞ。

●**山本委員** 事業の評価とはちょっとずれるかもしれませんが、先ほどの別の資料でもありましたように、個別計画と総合計画が連動していくようにする、というような文言もあったと思います。市民の参画も高めていくというところで、総合計画の下に、下という表現はおかしいかもしれませんが、例えば産業部会や、男女共同参画審議会などといった、市民が参画できるような審議会もあるかと思えます。そこで、市民の意見の反映だったり、進捗の確認もできているのだと思います。

私も一市民として、男女共同参画審議会については参加メンバーも知っていたり、作業部会

に参加させていただいたりっていう部分もあったりするんですが、全体像として、どういった審議会が存在して、今どういった施策に対してご検討が進んでいるとか、あとはこのあたりで、こういう意見を求めているとか。そういった情報が俯瞰して見られるようになっていると、皆さんの意見も反映しやすいのではないかと。指標というところに直接繋がるかはわからないのですけれども、相互に働きやすくなるのかなと思っております。以上です。

●**会長** ありがとうございます。

個別計画それぞれの策定状況について、残念ながら、私どもも今のところ、全体像を把握できていないということもあります。しかしそれらも含めて、実は評価の重要なピースといえますか、構成要素になっているということもあろうかと思えます。この辺り、今後に向けて事務局でも少し整理していただくことがあるといいかな、というふうに思います。

総合計画と個別計画の関係その中でそれぞれの関わり方を、少し立体的に考えていくことができるのではないかと、ということでご意見をいただいております。

審議会の情報について、事務局より補足があればお願いします。

●**事務局** 審議会の一覧につきましては、市のwebサイト上に公開（※）しており、先ほど皆様にURLをお送りさせていただいたかと思えます。そこに全ての審議会が掲載されている状況にはなっておりますが、「今まさに議論をやっている」というものばかりではありませんので、「自分が今、どの審議会に意見が言えるのか」というところを、もう少し分かるように工夫していかないといけないなと思えます。

（※）市webサイト「対象審議会一覧」URL

<https://www.city.kawanishi.hyogo.jp/shisei/joho/gyozaisei/shingikai/1003879/index.html>

●**会長** ありがとうございます。

このあたりはひょっとすると、私たちの総合計画の仕組みの中に、個別計画の進捗についても少し触れることができるような、そういう場面をつくっていかないといけないかもしれませんね。ここは今後の課題ということにさせていただきたいと思えます。

そのほか、いかがでしょうか。

どうぞ、水野委員からお願いします。

●**水野委員** 資料12ページのご説明について、先ほど他の委員からもご指摘があったんですけども、施策と事業の関係を見ると、現行の指標というのがちょっとバラバラに見えるようなところが、やっぱり課題だったんだろうなと思えます。

先ほどからのご説明では、今回その指標の置き方を変えるというようなお話でしたけれども、そういったところで、施策を実現するために重要なところをを取舍選択して行って、それをしっかりとチェックしていく、というような流れはストーリーとしては非常にわかりやすいので、私も賛成だなと思えました。最初に市長のお話にもありましたけれども、やっぱり今って財政的な面で取舍選択というのがすごく大切だと思うんですね。全てできればいいんです

が、なかなかそんなことにもならないので、効果的な事業をしっかりと見極めていく、というところが非常に重要なことだと思ってお聞きしておりました。以上でございます。

●**会長** ありがとうございます。

やはりいろんな事業の中で、優先順位をしっかりと見極めながら、評価というのを考えていく。そうすることで、施策というものの評価にも繋がっていくのではないかと、ということだろうと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

松浦委員、どうぞ。

●**松浦委員** ちょっと話が戻りますが、第6次をつくるにあたっては、第5次で実現できなかったことをしっかりと分析し、反省点や課題を解決する方向性や手段までしっかりと見据えないといけないと思います。そうしないと、同じ失敗を何度も繰り返すことになりかねません。ですので、総合計画全体の振り返り、第5次総合計画の成果と課題を6・7ページでご説明いただいたところはとても興味深く拝見しました。

その意味で、この6・7ページに関してはまだまだ概念的といえますが、全体を網羅することに重点が置かれているので、もう少し具体的に議論していく必要があると感じています。それがこの審議会でもどこまでできるか、それとも川西市の各担当課が取り組んでいくべきものなのか、というのは内容・バランス面でご判断いただければと思います。

私の考えを具体例で申し上げます。

6ページの「市民、NPO、事業者、市それぞれに役割を設定」という取組みは、川西市では20年以上前から議論されていることですし、昨今では他の自治体でも様々な取組みが進んでいます。第5次では「なかなか役割を意識してもらうところまで浸透しなかった」という課題があったということですが、じゃあ今後8年間はどうのように取り組むか。今日の資料では「それぞれの役割を引き続き共有していきます」とだけ書かれていますので、8年後もまた同じ結果になるのではと危惧しています。

私の専門であるICT分野でいくつか例を出すと、総務省が進めている「自治体マイナポイント」という、マイナンバーカードを使った仕組みがあります。例えば街の美化活動に関して、自治体や委託事業者だけでまちを綺麗にするのではなくて、市民の皆さんでゴミ拾い等をやっていきましょうという話が出たとします。ただ、それだけでは掛け声倒れで終わるので、美化活動に参加された方には、マイナンバーカードを使って「自治体マイナポイント」を付与します。1回100円とかではなくてももう少し大きな金額をもらえると、市民の皆さんもちょっとしたおこづかい稼ぎでやりがいが出てくるのではないのでしょうか。しかも、いたずらや重複付与・身分詐称等の不正も防止できて、面倒なポイントカードの管理やスタンプの押印等もなくなり、間違いなく美化活動に参加された市民の方にポイントを配布できます。自治体も安心して経費を支出できるでしょう。なお、自治体マイナポイント1ポイントが1円分の価値で、PayPay等のキャッシュレスに簡単に交換できます。本当はそのキャッシュレスサービスは川西市内の小規模店舗でしか使えない仕組みだと良いのですが、これはできるサービスとできないサービスがあるようです。

今まで、100万円を使って事業者に委託していた代わりに、ポイント50万円分を市民の皆さんに支払う。それによって、自治体も経費が節減できるし、市民の皆さんもこづかい稼ぎに加えてまちづくりへの参加意識が高まるし、良いとこづくめじゃないか、と思います。

今のはほんの一例ですが、第5次の「役割が十分に浸透しなかった」という課題を踏まえて第6次をどうしていくかについては、もう少し具体的に議論してもいいのではないかなと思いました。

7ページに関しても、自治会等の高齢化は10年以上前からずっと課題になっています。最近の事例としては外部委託が挙げられます。NPO法人や民間企業が、自治会業務を請負います。人手不足の課題は何も自治会だけではなくて、今の少子高齢化の中で、PTAや子ども会とか、地域を担う組織が行き詰ってきています。そこにも行政が一定関与して、お金を必要以上に使わずに解決できる仕組みに誘導していく。そのためにICTを使うのは、面白い取り組みではないかと思います。

その事例でいうと、自治会をあるNPO法人なり民間事業者が、今までの自治会費と同じ金額で運営を請け負います。ただし、自治会運営をやりながら、新聞やヤクルトの勧誘・販売活動、水のトラブルの取次、電球交換・エアコンの掃除、その他各種広告活動等もさせていただきますと。もちろん購入の無理強いはしませんが、そこで一定の利益が出る前提で自治会費を上げずに自治会の運営を請け負う、といった仕組みのようです。そういう仕組みを、行政が音頭を取って進めていく。住民にとってうれしいことですし、地域の事業者さんにとってもいいビジネスになりますし、総経費も節減できるという発想です。

2つ事例を申し上げましたが、第5次の過去10年の課題をしっかりと踏まえた上で、基本計画、あるいは実施計画に落とししていくというのが、総合計画の役割として非常に重要であるという意見です。

もう一つだけ追加で。先ほどの「総合計画をみんなで作る」あるいは「みんなで達成をめざす」というお話に関連するのですが、関東の自治体ではアプリを使って総合計画の概要版を市民全員に配信されていました。普段ホームページもなかなか見にいかないような市民が、市からLINEで配信された総合計画の概要版を見て、「すごく分かりやすい、うちの市がこんなことやってるっていうのを初めて知った」というようなご意見もあったそうです。

ぜひICTを積極的に活用して、課題解決に役立てていただきたいと思います。以上です。

●**会長** ありがとうございます。とても重要な論点をいただいております。

これからの基本計画、あるいは基本構想にも関わるかもしれませんが、公共的に価値のある、従来は行政サービスでやってたような活動について、むしろ市民が、あるいは事業者が主体になって、その方々を中心に動いていく。そんな計画になると「みんな」というのがもっと生きてくるのではないかと。それは地域別構想の計画でも同様で、地域の人々がもっと主体的に活動できるような計画にする。しかし、もちろん自分たちだけでは資源が足りませんから、そのところを補いながら、地域の人や、様々な人たちのネットワーク中で自主的に活動していくことで、じつは公共的・公益的な活動ができていく。そんな中でおそらく、そうした仕事をより効果的効率的にやっていくためのDXというかICTの活用ということも、出てきそうです。最後にいただいた、総合計画をSNSで発信というのも、ぜひ今後検討していただければ

と思いますので、よろしくお願ひします。

そのほか、いかがでしょうか。

山本委員お願ひします。

●**山本委員** 資料7ページに派生した内容です。「地域別構想に基づく地域づくり」に一定成果があったという点について、すみません、私も少し勉強が足りなかったのか、あまりこう、市民としての実感がなくなっているのが一つとですね、自分の住む地域では結構連携が取れていたり、自治会の方の熱心な活動もすごく見えてはいるんですけども、市全体としてはまだ把握しにくいのかなと思う点があります。

それと、「地域の担い手が高齢化して後継者が不足している」という課題の部分についてです。川西市は高齢者に限らず、地域のキーパーソンと言われるような方が地域のお祭りだったり色々な活動を盛んにされている一方で、こういった後継者っていうのが果たして若い方に本当に望まれているのか、というところがあまり見えてこないといひますか。何かこう、結構元気に活動している比較的若手のグループと何年も地元で貢献していただいている方が、どこかで分断されているような気がするんですね。そこの交流がしっかり図れているかというところも感じます。

そこで例えば、この前のかわにしMeetingみたいな感じで、地域に対話できるような場を市につくっていただく時もあれば、「各地域地域でやっていきましょうね」という時もあるって、これがどういったところで線引きされているのか、あるいは線引きというのはないのかもしれないんですが、「〇〇に関しては、地域でしっかり考えて、それをまとめて市に伝える」とか、「△△の分野だったら、市に直接相談してもらおう」とか。その辺の全体像がはっきりすることで、地域と市の役割とかがっていうのがさらに分かるようになればいいかなあと感じたところなんです。

●**会長** ありがとうございます。

これから総合計画を考えていくときに、おそらく市行政としてやるべきことと、地域でやっていただくこととの改めでの役割分担と、それから、単なる分担というよりは、両者が協力してやっていかないといけないような部分の整理。その上で、組織体制も含めてですが、地域が必要とするような在り方にも関わって議論をしていく必要があるのだろうと思ひます。

そうした地域の在り方を前提にした総合計画の機能というのを考えていくと、地域レベルからの「みんなの計画」ということにはなっていくんだらうと思ひながら、お話を聞いておりました。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

どうぞ、片山委員お願ひします。

●**片山委員** 松浦委員のICTを活用した、6・7ページ的具体例がものすごくいいなと思ひました。川西はもう4年ぐらい前に「まちかごアプリ」(※)を導入されていて、当時は子育て世代でも結構話題になりましたが、何年か経ったらそのアプリの話をも全く聞かなくなってしまう。確認するともう動いてないのかなと思うんですけど、本当に活用しないともったいないなと思うんです。川西はベースがあるので、総合計画の内容を完成形だけでなく途中経過



もどンドン発信して、興味を持ってもらえるようにしてほしいなと思っています。以上です。

(※) 現在は川西市子育て支援アプリ「かわにし子育てNavi」で情報提供中

●会長 ありがとうございます。

市民の皆さん方に、どこまで丁寧に情報交換方法等をお伝えできるかわかりませんが、事務局でもぜひ、これから計画が実際に完成してそれが実行されたときに、どんなふうに進んでいるのか、どこまでできたのかといったような情報共有が、こうした私どもの議論も含め、先ほどのアプリのような形でわかりやすく伝えられるととてもいいな、と思いながら聞いておりました。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

第5次総合計画の振り返りにつきましては、役割の設定、あるいは地域別構想からの展開について色々な課題がございました。もう一方では、そのような課題を乗り越えるようなICTの活用や、さらには、地域の仕組み、そして市民と協働の仕組みというようなことを次の計画では積極的に考えていくということ。さらにはまた、総合計画を通じてめざす都市像を達成していくために、これまでも数値目標を設定してきていて一定うまくいったところもあったのですが、一方では、それらが実際の施策の評価をするために適切に設定できていたか、ということについては非常に難しい課題が残った。それについては、重点プロジェクトのような形で評価する、という形を考えたらどうだろうか、というご提案がありました。

そして、そういう評価の仕組みをさらに、より有効なものにしていくための在り方に関するお話もありました。期間であるとかチェックの仕組み、そしてそれをフィードバックする仕組みを考えたらどうだろうか。また、総合計画と個別の計画とが連携していますから、個別計画の中にある評価の仕組み等を踏まえながら、総合計画の評価というのを考えていったらどうなのか等、色々貴重なご示唆をいただきました。これらを踏まえまして、第6次総合計画の評価、というところを事務局でもう少し整理して、ぜひご検討いただければというふうに思っております。

「体系的に全体を評価する」というのが、おそらく本当にとっても難しい。むしろ、市民の皆さん方にわかりやすい仕組みや、むしろ一緒に評価をしてもらう、そういうことができるような組立てができると、翻って全体をよく評価できるかもしれないですし、よりよくフィードバックもできるかもしれない。そんな観点で考えてみるのもいいかもしれません。

最後に少し余計なことを申し上げましたが、第5次総合計画の総括、それから、総合計画、基本計画の考え方等々、このあたりは以上にさせていただきまして、もう一つ重要なテーマが残っております。

議事の4つ目、「総合戦略の概要及び進捗状況について」でございます。ここでは総合計画ではなくて「総合戦略」と書かれております。このあたりの補足も含めて、事務局からご説明よろしくお願いたします。

●事務局 (4) 総合戦略の概要及び進捗状況について (【資料4】)

ここでは、第6次総合計画における”総合戦略”の考え方についてと、総合戦略の策定プロセスについて、ご説明させていただきたいと思っております。また、現行の第2次総合戦略の進捗状況につきましても、後ほど簡潔にご報告したいと思っております。

まず、総合戦略の位置づけについて、資料4ページをご覧ください。現在、次の第6次総合計画と第3次総合戦略とを一体的に策定することを検討しており、特にこの総合戦略を、基本計画内における施策の中でも重点的に推進していく、言わば「重点プロジェクト」と呼ばれるものに位置づけようと考えております。この図でもお示ししているように、施策の一つを総合戦略とする考え方もありますし、あるいはAからEといった複数の施策を横断的に取りまとめたものを総合戦略とする、という考え方もあります。ここは今後検討してまいります。

また、どのような内容を重点プロジェクトとするかに関しては、今後実施する市民会議であったりですとか、様々な市民参画の場で市民の方から得られた意見をもとに策定していきたいと考えております。

続きまして、総合戦略策定の際の留意点について資料5・6ページでご説明します。

制度上は「まち・ひと・しごと創生法」という法律に基づくのですが、まず国・県の定める総合戦略が先にございまして、自治体はそれらの基本目標等を勘案した上で独自に策定することとされ、効果検証のためにKPI（重要業績評価指標）を設定する必要があります。また、策定にあたっては「地域の特色や地域資源を活かし、住民に身近な施策を盛り込み実施することや、PDCAサイクルに基づく効果検証の実践により、効果的な取組みを推進する、という側面も期待されています。

国の掲げる基本目標を一部抜粋させていただきますと、「人が集い、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」であったり、「結婚、出産、子育ての希望をかなえる」等があります。県も同様に「地域の元気づくり」や「子ども子育て対策」等を挙げておられるので、そういったところを勘案して市町村でもつくっていく流れとなります。

特にKPIに関しては、年次の基本目標を施策単位で設定することが必須であり、かつ、達成度合いを検証し、対外的な説明を可能にするためにも、行政活動そのものの結果を示したアウトプット（活動指標）ではなく、その結果として住民の方に伝わった効果を示すアウトカム（成果指標）を設定することが望ましいと規定されております。

また、総合戦略は国・県の交付金とも大きく関係しています。地方版総合戦略に定められた事業に対して交付金の申請が可能となるのですが、その際にはやはり事業実施に関するKPIを設定する必要があるということもありますので、策定時はそういった面でも留意すべき点となります。

ここまでのまとめとしまして、総合計画と総合戦略を一体的に策定するには、総合計画の策定方針を基本としながらも、先ほど申し上げた要素を勘案して重点プロジェクト及びKPIの設定が必要ということになっております。私どももこれらを踏まえ、第6次総合計画と一緒に新しい総合戦略を定めていきたいと考えております。

続きまして、第2次川西総合戦略の進捗状況を簡単にご説明させていただきたいと思っております。資料8ページにお示ししているのが現在の総合戦略です。第5次総合計画の実施のために特に重要な政策を明らかにして集中的に実施するため、令和2年度に策定しました。

計画期間は令和2年度から令和4年度となっております。4つの重点戦略を設定するという構成になっており、策定プロセスとしましては「かわにし市民会議」というのを6回開催しました。これは本市で初となるやり方で、無作為に抽出した2,000人の方に招待状を送りまして、参加を希望された方々に議論いただき、そこで出た意見が元になっております。ここには例として【重点戦略1】から一部抜粋しておりますが、各重点戦略には施策が紐付いており、そこからつながる更に細かい「取組内容」まで書いたものを、総合戦略として取りまとめております。

資料9ページ以降は、各重点戦略の令和3年度決算時点における進捗状況です。【重点戦略1】を例にとりますと、3つのKPIと2つの参考指標を設定しております。それぞれに基準値と目標値がありまして、令和2年度、令和3年度の数値については、それぞれ翌年度の8月ごろに把握する決算時の値を置いております。

資料10ページの一覧表は、1年間で実施した取組内容の詳細や翌年度に向けた課題などを、事業担当課に確認し記載したものです。ここでは一部を抜粋しています。続く11ページから13ページは、【重点戦略2～4】の指標と施策について記載しています。

以上の点を踏まえまして、令和6年度に新たな総合計画を策定する際には、「第3次総合戦略」も形を変え、基本計画に入れていきたいと思っております。

事務局の説明は以上でございます。

●**会長** ありがとうございます。

ただいま、川西市第2次総合戦略と、私どもが今検討しなければならない総合計画、これらの関係についてお話をいただきました。この「総合戦略」の今後の位置付けについて、特に総合計画での重点的なプロジェクトというものに直結をする、そういう形もあり得るということなので、このあたりの整理も必要かと思っておりますので、委員の皆様方からもご意見あるいはご質問をいただければと思います。よろしく願いいたします。

元は別々の計画を一緒にして、きちんと考えていきたいと思いますという、ある意味では川西市が、まさに市としてその自治を実現していく、そういうスタンスでの計画に対する考え方かなというふうには思っております。

中野委員、どうぞ。

●**中野委員** 説明ありがとうございます。概略はよくわかりましたが、これを一般の市民に理解していただけるかどうか、難しいように思います。総合戦略と総合計画の関係性など、理解がなかなか難しい。これらに関連づけるのであれば、基本構想、基本計画、実施計画のピラミッドの図の中に、「総合戦略」をしっかりと組み込んだ形でお示しをする。そして、「総合戦略」の期間が3年タームで回るのであれば、それをどうこの中でチェックをしていくのか、ということも含めて、もう少し工夫できないのかと思っておりますが、いかがでしょうか。

●**会長** はい、ありがとうございます。

今のところ事務局のほうでご提案いただいたのは、まさに中野委員からご指摘いただいた通りかと思っております。今度の新たな総合計画の中に、この重点的な戦略としての総合戦略というの

をしっかりと組み込んでいく。事務局も一応こういうお考えなのかなと思いましたが、その理解でよろしいでしょうか。

●事務局 はい。その通りでございますが、住民の方にわかりやすい構成、あるいは説明の仕方を今後しっかりと検討していきたいと思えます。

●中野委員 ありがとうございます。そういう位置付けであると理解はしているのですが、市民の方にとっては、総合計画と総合戦略をどう区別したらいいのか、疑問に思われると思うので、そこをわかりやすく説明する必要があると思えました。以上です。

●会長 ありがとうございます。

有り体に言えば「国のお金を取ってくるための方法」なのですが、これを言うともう身も蓋もありませんので。

●中野委員 補助を受けるためには、ここに入れておかなければならないという理屈は理解しているのですが、関連付けるのであれば、わかりやすい説明が要るのかなあと考えたしいです。

●会長 ありがとうございます。

総合計画の体系の中にしっかりと位置付けていく中で、「総合戦略といって、しっかりと国から財源もいただいてきています」というような説明が、どこかでできるといいですね。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

どうぞ、上村委員。

●上村委員 例えば9ページにあるような、KPIの作り方がやはり気になっているところです。今後皆さんがどうするかということなんですけど、今は基本的に、アンケートベースになっていて、そこからアウトカムを取っているんですね。サンプルセレクションバイアスがかかるので、本当だったら毎年同じ人で調査するのが一番望ましいんですね。

あとは社会情勢の変化によってもアンケート結果が変動しやすく、行政のやったことに対して本当に評価できているかわからないということがあるので、やはりここは見直しが必要なのかなと思えます。もしやるのであれば、職員さんとか市民が改善しやすいアウトカムで、進捗状況をベースにした「総合インデックス」みたいなものをつくって指標化していく。もちろん、代表的な施策を選ぶ方法や、この事業のこのアウトカムを改善する、という方法もあるのですが、それができない場合は、総合的なインデックスを作るという方法もあります。今のアンケートベースだと、皆さんの努力が実っているかがわからないので、少し改善する必要があると思えます。以上です。

●会長 ありがとうございます。

市民アンケートは重要な役割ではあるのですが、主観的な指標ですので、客観的なアウトカム指標とするのは難しいところもあります。そうすると、アウトプットに近いレベルの指標を使って総合的に評価していくことで、KPIに近いものとして捉え直すこともできるのではないかと。そうした観点もぜひ取り入れてはどうだろうかということで、KPIのご意見をいただきました。

そのほかいかがでしょうか。

どうぞ伊藤委員お願いします。

●伊藤委員 重点戦略ごとに評価するための目標値があって、それを「何%の人が満足している」、という割合で測るのはある程度しょうがないところかなと思いますが、例えば資料13ページにある重点戦略4の「必要な市の情報が入手できていると感じている市民の割合」、この目標値が65%。これに対し、令和3年度では65.8%だから「達成」かということ、本当にそうだろうか、と。残り35%の人たちは、なぜ入手できていないと思っているのかという部分を分析して、建前上は一応100%をめざす。そういう姿勢も少し必要なのかなと感じました。以上です。

●会長 ありがとうございます。

KPIはKPIとして必要なのですが、同時にその意味であるとか、背景にある状況をしっかり見ないとせっかくのKPIを活かせませんので、このあたりはまたご議論いただければと思います。

また、あくまでも限られた年限での利用目標ではあるので、それをどういう基準で設定しているのか。理想でいうと、ご指摘の通り100%っていうのは何にしてもそうなるはずですから、どうして今そこから距離があるのか、といったところについてある種の合理的な説明というのをも求められることにはなろうかと思います。

新たな総合計画の中に「総合戦略」というのを位置付けて、言ってみれば、それ自体を評価のひとつの目安として考えていくとすれば、そうしたKPIの作り方というものも、大変重要な視点になろうかと思います。ぜひ今後、さらに議論を進めていけたらなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

そのほかいかがでしょうか。これでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

それでは、総合戦略の位置付けにつきましては、事務局でお考えの通り、総合計画の中に重点プロジェクトあるいは重点戦略として位置付けていく、というような考え方で進めていただければと思っております。ですから私どもも、そうした議論をこれからしていけないといけないということでございますので、よろしく願いいたします。

今後の重点プロジェクトの在り方につきましては、事務局のご説明にもありましたように、色々な市民参加の機会も経ながら、市民の方々に関わっていただいでつくっていく、そういうお話でした。

事務局のほうで、重点戦略あるいは重点プロジェクトを今後どういう手順で進めていかれる

ご予約なのか、今の時点で決まっているようなところがあれば、ご説明いただければと思いますが、いかがでしょうか。

●事務局 先ほどの【資料4】においても、現在の総合戦略の策定プロセスとしまして、市民の方に「かわにし市民会議」という形で集まっていただき、そこで出された意見をもとに策定しているとご説明しました。私どもはこの策定プロセスが非常に大切だと感じており、今後、総合計画と一体的に策定する予定の新しい総合戦略につきましても同様に、市民の皆さまに関わっていただく、というところに重きを置いて展開したいと考えています。

現在は、「かわにしミライ会議」というものと、意見収集を目的とした「オンラインプラットフォーム」も同時期に始められるよう、今、作業を進めております。また、その他の取組みとしまして、元市民である転出者に向けたアンケートも実施しております。こちらはちょうど12月中旬にアンケートのご協力をお願いしたところですので、また次回以降、集計結果をご報告いたします。

「かわにしミライ会議」は、総合戦略でいうところの重点プロジェクトを市民の方と一緒につくっていこうということで、ワークショップ等を含めて今年度に全3回を予定しております。市内在住の15歳以上の方を無作為で2,000名抽出しまして、来週に招待状という形でご案内します。なお、第1回は令和5年1月29日（日）です。名称に「会議」とついてはいますが、仰々しい議論をする場ではなく、発言に不慣れな方でも気軽に対話できるような場づくりを心がけ、今回はまちづくりに特化したカードゲームを使いながら進めていく予定です。

ここまでご説明した「かわにしミライ会議」は、言わば「対面で参加いただける方にお話しいただく場」となりますが、こちらが指定した曜日では仕事があって来られない方や、あとはご家庭の事情もしくはお身体の事情、その他、直接会ってお話しすることがどうしても苦手な方もいらっしゃるかと思っておりますので、そういった方たちに向けても、総合計画に関する情報の共有であったり、またそれに対して何らかのご意見をいただく場を、今回初めてオンラインで提供しようと考えております。

こちらにつきましても、先ほどのかわにしミライ会議の開始に合わせて、来年の1月下旬から実装する予定です。具体的には、例えばこの審議会の内容であったりとか、この夏に実施しましたかわにしMeeting、それと同時に始めていくかわにしミライ会議等、策定過程の取組みを載せるとともに、興味がある人は何かしらの意見が書き込めるような場を想定して作業を進めているところです。

以上が、現時点での取組みの概要説明となります。次回の審議会では、こういった取組みの進捗もまた詳しくご報告したいと思います。

●会長 ありがとうございます。

ただいまご説明いただきましたが、「かわにしミライ会議」、そしてオンラインでのプラットフォームが予定されています。市民の皆さん方には、それを通じて重点プロジェクトを自身の手で作り上げていただこうという、そういうプランをご紹介いただきました。

ここまでいろいろとご議論をいただきました。基本構想の方針や、あるいは基本計画の在り方、それらの評価の仕方、さらには、従来の第5次の総合計画の評価結果とそこでの課題。そ

して、それを踏まえた今後の改善方法をご審議いただきました。

また、新たな計画の中に組み込むべき「まち・ひと・しごと創生総合戦略」その位置付け等々をご紹介いただきました。そして、こうした重点プロジェクトないしは重点戦略をつくっていくための市民参加の仕組み、これについて最後にご案内をいただいております。

各委員から、ここまでのところを全体振り返っていただいておりますので、ご自由に意見やご質問いただければと思います。疑問な点も、どんどんいただければと思います。

中野委員どうぞお願いします。

●**中野委員** すみません。先ほど話したことと関連するのですが、ちょっと確認です。

この「総合戦略」については、総合計画の中では一切出てこないという位置付けでよろしいでしょうか。あるいは、「総合戦略」をつくるにあたっては「総合計画と関連づけています」という説明だけで、総合計画の中には「総合戦略」という言葉自体も出てこない、というような解釈でよろしいのでしょうか。

●**会長** 事務局でもし、そこの整理をすでにしておられるようであればお願いします。

●**事務局** 現時点では、総合計画の一部を「総合戦略」と兼ねるような形でできないかと考えているところです。

●**中野委員** その関連付けをオープンにする、ということですね。

●**事務局** はい。

●**会長** 総合計画の中で「この部分が総合戦略です」といって言うってしまう。場合によっては、必要があれば総合計画の一部を抜き出して、ここが総合戦略部分ですというような提示をするというような方法もあります。そういう形にしておられる自治体もいくつかありますので、そこは十分可能かなと思っております。

大事なのはやはり、総合計画の中で、「総合戦略」というのをしっかりと重点プロジェクトとして位置付ける、多分ここだろうとは考えております。

どうぞ、事務局お願いします。

●**事務局** じつは今、第5次総合計画にも重点目標を設定しているんです。

ただそれらは、総合計画の中から重点的にしていこうというものを我々行政のほうで決めておりました。その重点目標について、今度の第6次では市民の方々に考えていただいて、むしろ「自分たちがプレーヤーになってそれを実現していこう」というようなご意見を集めたいというふうに考えています。次の総合計画の重点プロジェクト自体は、あくまでも「総合戦略」という、全国的な取扱いの枠組みには入りますけれど、ただそこはKPIについての検討も持ちながら、いかに進捗状況を把握し、どこまで進んだか、ということを見せられるよう、この総合計画の中で併せて図っていきたいといった思いになります。以上です。

●中野委員 それでは、総合戦略のKPIと総合計画の評価指標というのはイコールになるという理解でよろしいですか。

●事務局 はい。まさにおっしゃる通り、じつは今の「第2次総合戦略」の指標も、総合計画の施策指標もしくはアウトプット指標の中から、選択しているということになります。

●中野委員 わかりました。ありがとうございます。

●会長 ありがとうございます。色々ご意見をいただきました。

総合計画と総合戦略を一体化するその中で、重点目標ないしは重点戦略、重点プロジェクトというのを市民主体でつくり、そして実現していく。「みんなで作る」「みんなで達成する」計画にしていこうという工夫が、この中でも進んでいければと思っております。

そろそろ本日の会議につきましては、このあたりで止めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

ありがとうございました。それでは本日の議論につきましては以上にしたと思います。

今日は市長さんにお話を聞きながらというのが途中になかったので、最後になって恐縮ですが、ぜひご感想やあるいはお考え等ありましたらにいただければと思います。よろしく願いいたします。

●市長 ありがとうございます。

まず、今日も本当に活発なご議論をいただきありがとうございます。そしてこの1年間、皆さんから私自身もたくさんの刺激をいただきました。今日も議論をしていて、例えばやはり数値目標をどういうふうの設定をし、評価していくのかという点。改善していくべき、という議論はもう何十年もずっと言い続けていて、やり続けて、でもまだうまくいかないという部分でもあります。川西市は事業数で言うと300を超えており、その全ての進行管理をして、その全てにいわゆるアウトカム、成果目標を置くのはなかなか難しいと思います。

そういう意味で少しシンプルにして、市民の皆さんにとってもわかりやすい評価のやり方、あるいは共通の目標を持つというのは、今回私たちが大きくめざさないといけないところかなと思います。

私自身も、どうマネジメントどうするのかという点はすごく悩んでおります。総合計画の細かい事業の進捗状況は、月に1回、部長会議というところで全部チェックしているのですが、何せその何百ある事業を、部長会議の2、3日前に全員が更新するものですから、そんなに全部を見られるわけがないだろうと思いつつも、頑張ってチェックしています。

ただ「D○」のところにそうやって注力すると、成果部分はどうなるのかと。また、成果に注力すると、中野委員からもご指摘がありました通り、改善をどう図っていくのかということ



になりますので、我々としても全体の中での軽重といいますか、進捗状況で絶対にチェックしないといけない部分、常に数字を見とかないといけない部分を明確にしていく必要があるのかなど。事業全ての優先順位はつけているはずなんですが、全ての成果が同じような取扱いになっていますので、そういったことを変えていく必要があるのかなあということを、今日の会議を聞いていて思いました。

まだまだ答えが見つからない中で、皆さんに引き続きお力をお借りしたいと思っておりますので、これからも一緒に、しっかりと議論させていただきたいと思えます。

本当にこの1年、皆さま方に素晴らしいご議論をいただきましたこと、川西市を代表して心からお礼を申し上げたいと思えます。zoomでご出席いただいた皆さまも本当にありがとうございました。

●**会長** ありがとうございました。市長さんのご挨拶をいただきましたので、事務局のほうに進行をお返しいたします。よろしくお願ひします。

●**事務局** ありがとうございました。

本日議論いただきました内容については、皆様方からのご意見を踏まえ修正し、会長にご確認いただいた上で、引き続き次回の審議資料としたいと思えます。

また、議事録及びグラフィックレコーディングにつきましても、皆様にご確認いただきたいと考えております。会の途中で触れることができなかつたんですけれども、最後に少しだけ、この画面に共有して終わりたいと思えます。今回は基本構想と基本計画についていただいた色々なご意見を、それぞれの図に紐づけるように描いていただいています。

令和4年度の第4回審議会につきましては、令和5年の2月中旬から下旬ごろを予定しております。詳細につきましては後日、事務局よりメールにてご案内ご連絡いたしますのでよろしくお願ひいたします。

#### 4. 開会

●**事務局** それでは、以上をもって令和4年度第3回総合計画審議会を終了いたします。ありがとうございました。

【終了時間：午後7時58分】